

因幡の清流・ふるさとの水辺・千代川の川づくり



# 千代川水系の概要

美しい千代川を未来に届けよう

以下の項目について、皆様のご意見をお聞かせください！

洪水対策について



水の利用について



河川環境について



川の管理について



体験や学習の場として



## これからの河川整備に関する アンケートご協力をお願い

この冊子は、今後 20 年～30 年をかけて実施される千代川の整備内容を定める河川整備計画について、流域で暮らす皆さまと共に考えていくためお配りするアンケートの参考にさせていただくための資料です。

国土交通省 中国地方整備局 鳥取河川国道事務所

# 流域の特徴

## 流域の諸元

千代川は、その源を沖ノ山（標高1,319m）に発し、佐治川、八東川、袋川等の支川の水を集め鳥取平野を北流し日本海に注いでいます。

流域の広さ	1,190km <sup>2</sup>
川の長さ	52km
流域に住む人	約 20 万人
流域の市町	鳥取市、八頭町、智頭町、若桜町

## 「流域」

雨や雪が、その川に流れ込む範囲のことです。千代川の流域面積は約 1,190km<sup>2</sup>で、鳥取県の約 1/3 の面積を占めます。

## 流域図



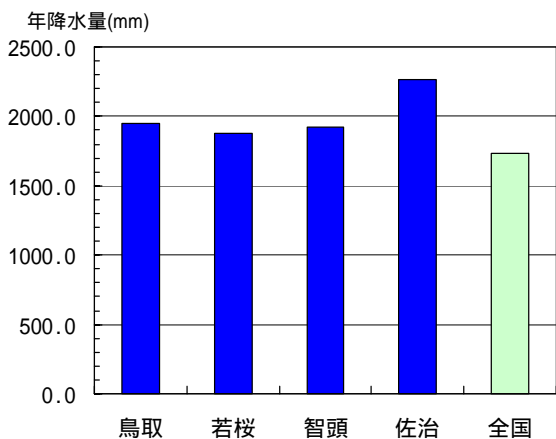
直轄管理区間

(千代川:26km 袋川・新袋川:9.5km (旧)袋川:3.6km 八東川:1.3km)

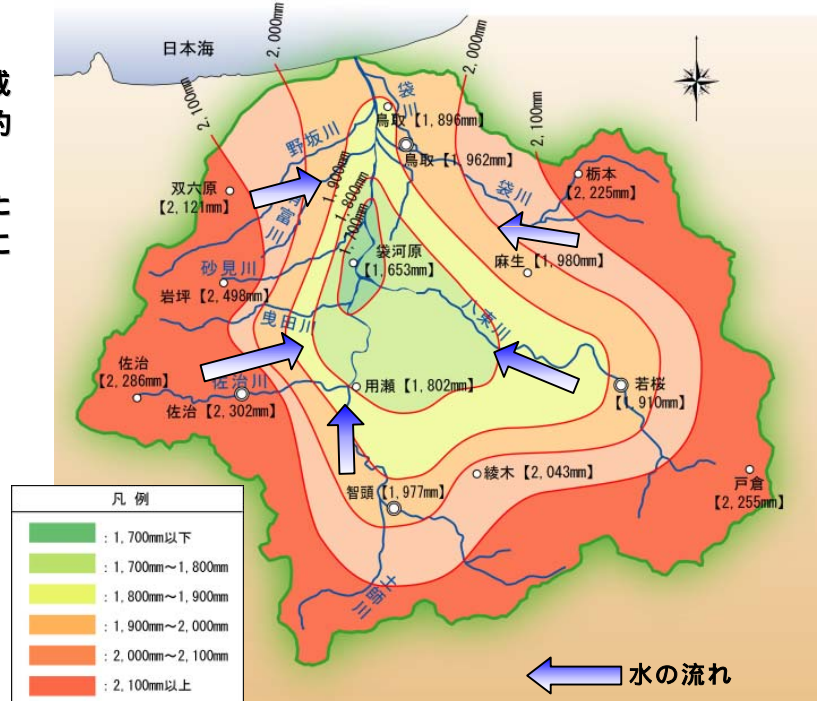
## 年間降雨量と流出の特徴

年間の平均降水量は、約 2,000mm(平成7年～平成16年)で、全国平均(約1,700mm)よりも多くなっています。

また、三方の山地で多く雨が降り、降った雨は三方向から鳥取平野に向かって一気に流れ込みます。



気象庁観測地点の年間平均降水量 (H8～H17)



千代川流域における年間の平均降水量分布図 (平成7年～平成16年データに基づき作成)

## 上流域

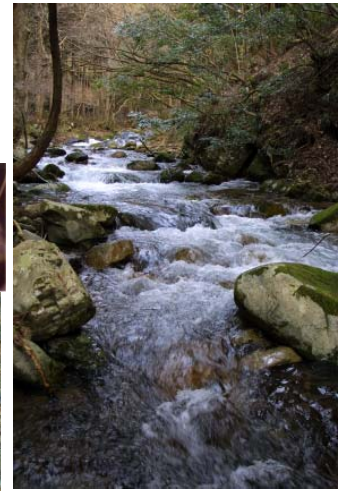
千代川の上流部は、<sup>あしつ</sup>芦津溪谷をはじめとする数多くの深い溪谷と濃い緑に包まれた自然植生豊かな地域となっています。特に氷ノ山の山頂近くには自然林が残り、特別天然記念物のヤマネなど珍しい生き物も生息しています。



芦津溪谷



氷ノ山山頂付近



千代川最上流部

## 中流域

佐治川合流点から八東川合流点までの中流域は、山に挟まれた狭い平地を縫うように流れていきます。中流域では、千代川で最も生物の種類が豊かな地域となっています。また、全国的にその名が知られ、鳥取県の無形民俗文化財にも指定されている“流しびな”が催される用瀬地区も中流域に位置します。



用瀬付近を流れる千代川

## 下流域

下流域は、鳥取平野が拡がり、鳥取県東部地域の中心地を形成しています。特に千代川と新袋川に囲まれた地区は鳥取県庁をはじめ、鳥取県の基幹産業なども集まり、経済の中心地となっています。また、河口右岸側には鳥取県を代表する観光名所である鳥取砂丘が広がっています。



鳥取県を代表する観光名所：鳥取砂丘



鳥取市街地の様子

# 洪水対策について

## 過去の水害

千代川の下流域は、低平地が広がっているため、水害を受けやすくなっています。

過去の水害としては、鳥取平野が水没するほどの被害を受けた大正7年9月の大洪水や、戦後最大流量を観測した昭和54年10月洪水の他、近年では平成10年10月洪水でも川から水があふれる被害が発生しています。



大正7年9月洪水  
(鳥取市役所における浸水深)



昭和54年10月洪水  
浸食された道路(安蔵)



平成10年10月洪水  
用瀬地区の浸水状況

### 過去の主な洪水と千代川流域における被害概要

洪水名	成因	行徳地点 観測流量 (m <sup>3</sup> /s)	人的被害		家屋被害		田畑 浸水等
			死者	負傷者	流失 全壊 半壊	床下 床上 浸水	
大正7年9月14日洪水	台風	約6,400	30人	24人	702棟	13,186棟	7,337町
大正12年9月15日洪水	台風	約5,700	2人	9人	74棟	11,023棟	1,861町
昭和9年9月21日洪水	室戸台風	約3,200	11人	14人	1,476棟	7,529棟	4,014町
昭和34年9月26日洪水	伊勢湾台風	約2,500	2人	2人	73棟	5,432棟	2,833町
昭和36年9月16日洪水	第2室戸台風	約2,700	2人	2人	37棟	351棟	293ha
昭和51年9月10日洪水	台風17号	約3,300	2人	-	12棟	732棟	185ha
昭和54年10月18日洪水	台風20号	約4,300	-	-	15棟	1,340棟	510ha
平成2年9月19日洪水	台風19号	約2,500	-	-	-	105棟	17ha
平成10年10月18日洪水	台風10号	約3,600	-	-	16棟	185棟	20ha
平成16年9月29日洪水	台風21号	約3,200	-	-	-	99棟	-
平成16年10月20日洪水	台風23号	約2,600	-	-	-	16棟	-

注) 1町 = 0.99ha 1.00ha

## 治水事業の経緯

### 本川の付替えと新袋川の開削 (大正 15 ~ 昭和 9 年)

千代川は、下流部で大きく蛇行し日本海に注いでいたことから水はけが悪く、鳥取市街地に水が集まりやすくなっていました。

このため、洪水を速やかに日本海へ流すことを目的に千代川の流れをまっすぐにする工事や新袋川を新しく掘る工事などを実施しました。

### 河口の付替え (昭和 49 年 ~ 昭和 58 年)

千代川の河口は、砂丘が発達し、砂の堆積により、水の出口が狭まっていた。このため、洪水の水を流すことが出来なくなり、鳥取市街地はたびたび洪水被害に悩まされてきました。また、砂の堆積により船の航行にも支障が生じていました。このため、河口を付替えるとともに、水を沖まで導く堤防の工事を実施しました。

### 堤防の整備

大正 7 年 9 月の洪水を契機として川沿いの洪水被害を防ぐため、大正 15 年より本格的な堤防の整備などが始まりました。現在では、一部堤防の高さや幅が足りない所がありますが、概ね堤防は出来上がっています。

現在は、用瀬地区の築堤工事を実施しています。

### 内水対策

鳥取平野は、水はけが悪く、河川に排水できずに氾濫した水(内水)による被害が発生しやすいところです。特に昭和 54 年 10 月洪水では、多くの場所で内水被害が発生しました。このため、被害を軽減するために、排水機場の建設、大路川の水位を下げるための千代川との合流点位置を下流に移す工事などを実施しました。

### 殿ダムの建設

鳥取市街地を洪水被害から守ること。水の安定供給等を目的として、袋川上流に殿ダムを建設しています。

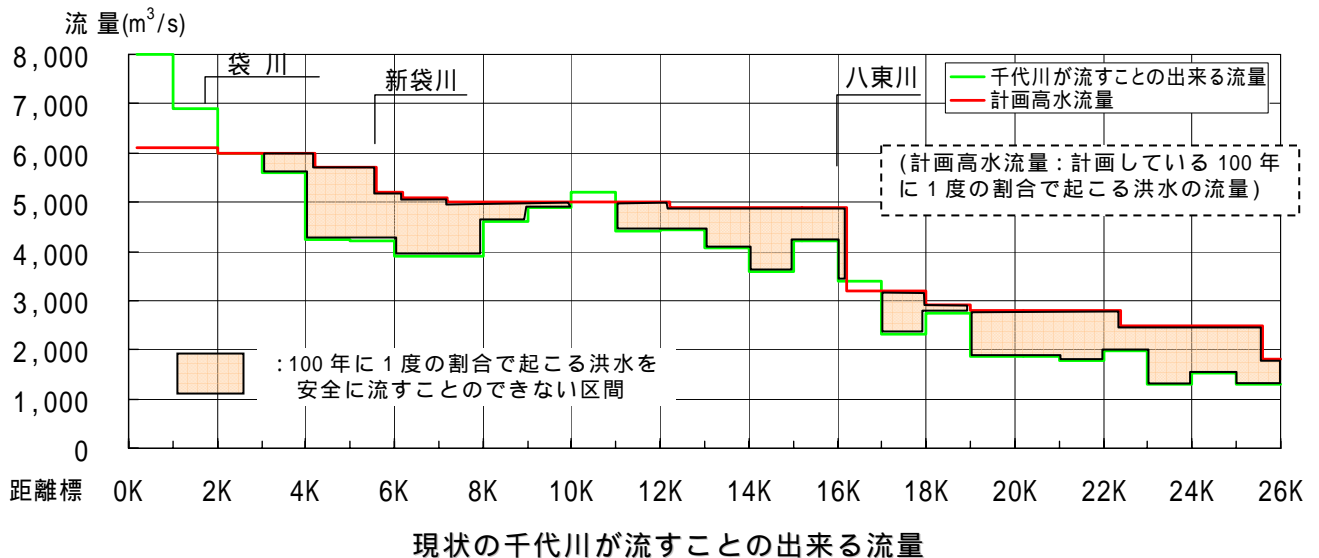
## 治水上の課題

大正 15 年から始まった国による改修事業により、堤防の決壊などの甚大な洪水被害は減少する傾向にあり、治水対策としては一定の成果は収めていると考えられます。

しかし、現状の川に流すことが出来る流量は、未だ十分とは言えず、引き続き大雨で増えた水を安全に流せるようにする必要があります。

また、洪水被害の減少と反比例するように、鳥取市街地の拡大による氾濫区域の人口および資産が増大し、氾濫時の被害は、以前とは比較にならないほど大きなものになりつつあります。

鳥取県の県庁所在地を控える千代川流域の洪水被害の軽減は、鳥取県の発展のため必要不可欠なものと考えられます。



# 河川環境について

## 河川の自然環境

千代川は、古くから改修が進められてきたため、瀬や淵、自然河岸などが少なくなってきましたが、今でも因幡大橋から源太橋にかけては大規模なアユの産卵場が残り、用瀬地区では露岩が点在し変化に満ちた景観を形成しています。これからの河川改修は単に洪水を流すだけでなく、生き物にも優しい川づくりが求められています。



源太橋下流(アユの産卵場)付近



カワヂシャ



ミクリ



コハクチョウ



アユカケ



アユ



スナヤツメ

### 和奈見の枕状溶岩

千代川中流の川の中にある和奈見(わなみ)の枕状溶岩は海底火山の痕跡を今に伝えるものと言われ、学術的に貴重な岩です。



ヤマメ



カジカガエル



用瀬付近(赤い橋はひいな橋)

## 河川空間の利用

千代川では、夏期にはアユ釣りで賑わう他、整備された高水敷ではスポーツ大会やイベント会場として利用されています。また、用瀬では水辺の伝統文化である“流しびな”が旧暦の3月3日に催されています。



河原町のアユ祭り



鳥取市民納涼花火大会



用瀬の“流しびな”



アユ釣りの様子



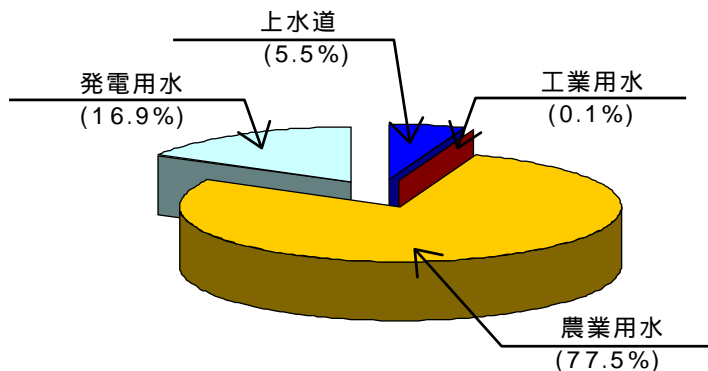
倉田スポーツ広場でのサッカー大会

# 水の利用について

## 水利用の現状

千代川に依存して利用される水の約 8 割は農業用水で、鳥取市街地で利用される水はすべて千代川の水に頼っているのが現状です。

夏期に降水量が少なかった場合、千代川の水が少なくなり、鳥取市民の生活に深刻な影響をおよぼすことが懸念されます。



千代川から取水される用途別流量と割合(農業用水は最大取水量です)



平成6年8月の渇水(袋川：玉鉾橋付近)



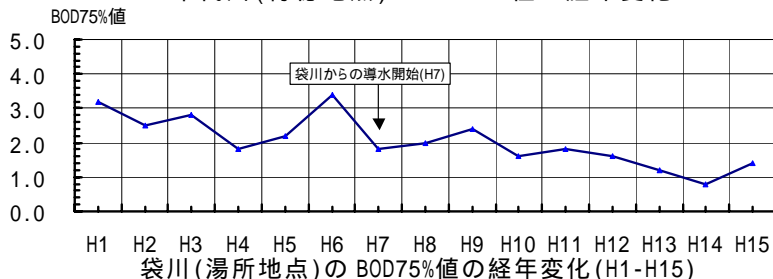
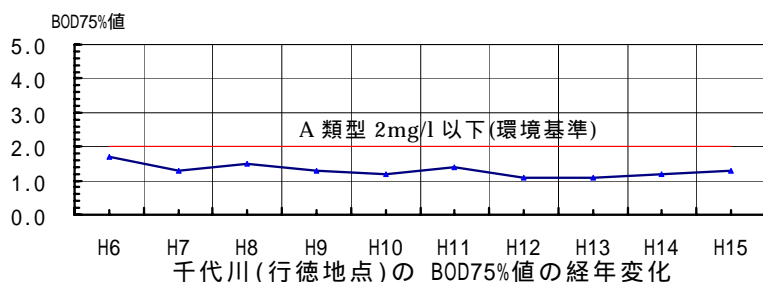
平成6年8月の渇水(千代川：八東川合流点付近)

## 水質

千代川本川は、水質環境基準を満足し、良好な水質を維持しています。

一方、鳥取の中心部を流れる袋川については、水質の悪化が問題となっていました。平成7年から新袋川の水の一部を流すことで徐々に水質が良くなる傾向にあります。

しかし、日照りが続き水が少ない時などは一時的に水質が悪くなる場合もあるため、引き続き、流域一体となった取り組みが望まれています。



# 川の管理について

## 維持管理

平常時は、洪水の時に河川管理施設が正常な機能を発揮するように適切な維持管理や老朽対策を行っています。また、河川管理施設等の異常を早期に発見するために、河川巡視も行っていきます



被災箇所での河川巡視

## 防災情報の提供

リアルタイムの河川映像や雨量、水位情報をインターネットや携帯電話を通じて、地域住民に情報を発信しているとともに、浸水想定区域図も公表しています。



浸水想定区域図

## 地域連携

千代川では、河川愛護月間や千代川写真コンクール等の各種行事を通じて地域住民の意見の収集などを行っています。

また、平成9年12月に設立された「千代川流域圏会議」では、千代川ニュースを通じて千代川に関係するさまざまな情報を発信しています。

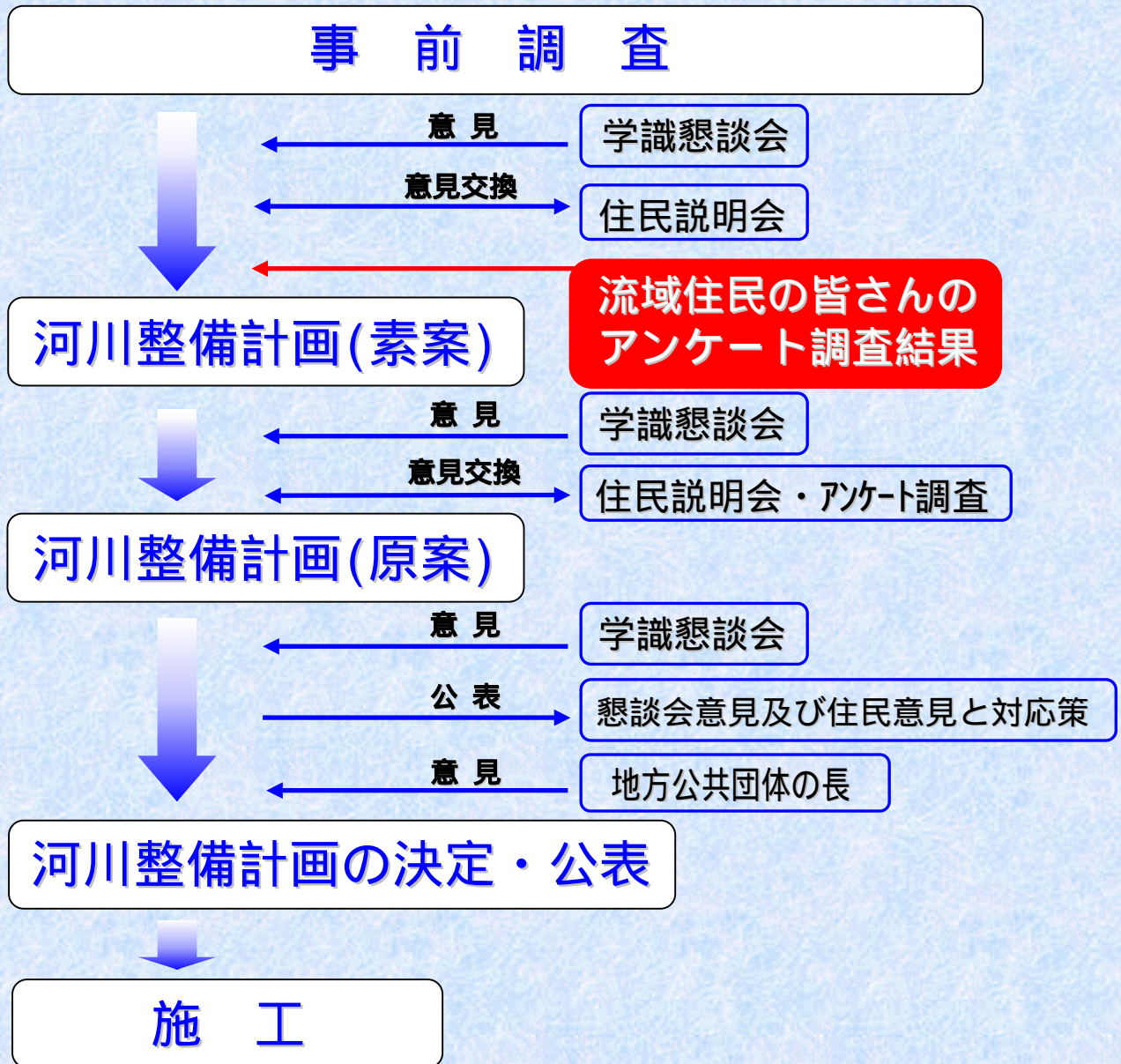


千代川ニュース

# 河川整備計画の流れ

千代川の未来に届く川づくりだからこそ、皆さまとともに考えていきたいと思えます。

千代川水系河川整備計画は次のような流れで策定されます。



千代川の概要については、ホームページでもご覧いただけます。

鳥取河川国道事務所ホームページ <http://www.tottori-mlit.go.jp/>

皆さまのご意見が、今後の千代川の川づくりに活かされます！  
アンケートへのご協力をお願いいたします。

【お問合せ先】

国土交通省 中国地方整備局 鳥取河川国道事務所  
河川管理課

〒680 - 0803 鳥取県鳥取市田園町 4 丁目 400 番地

TEL.0857-22-8435 FAX.0857-22-5714